

パブリック・コメント

「第3次瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン（案）」に関する意見

1. パブリック・コメントの概要

意見提出期間 令和3年12月6日（月）～令和4年1月4日（火）

意見提出者数 1名（メール）

意見提出件数 1件

2. 意見の概要と市の考え方

No.	意見の概要	市の考え方
1	<p>広域観光の中心事業として掲げる金毘羅街道は、子どもたちのふるさと学習としての意義は認めるが、地域活性化を図る事業としてはインパクトに欠ける。善通寺市、琴平町のガストロノミーウォーキングに参加する予定だが、参加者は100名程度と限られたものでしかない。</p> <p>今回提案する夜型観光は、夜にイベント等を開催することで宿泊者数の増加や高価格の消費など、地域全体の経済波及効果が見込まれる。</p> <p>プロジェクトマップなど各地で効果が出ている夜型観光の事業を一から立ち上げるのはノウハウや経費等の面でリスクがある。この点、既に多くの観光客が訪れているレオマやまんのう公園ではイルミネーションが目玉事業として定着しているが、観光客を取り込めきれておらず、大きな機会損失と言わざるを得ない。</p> <p>夜型観光に参加する場合、移動は車に頼らざるを得ず、高価格消費にもつながる、地域の食とお酒を楽しむような状況は難しい。また、地理に不案内な県外観光客は、夜間外出自体が進まない。</p> <p>この弱点の解消のため、夜間ライトアップ期間のレオマ、まんのう公園、琴平、丸亀のホテルを回る巡回バスの試験運行（現在のルートの延伸）を提案する。</p> <p>また、ライトアップ期間のほか、行楽シーズンの時機を捉え、圏域内でのイベント、また、レオマやまんのう公園において、圏域の代表的な食を揃えたマルシェを開催するなど、地域経済への波及効果を視점에置いた取組を実施していただきたい。</p>	<p>広域観光の推進で掲げている金毘羅街道の活用は、平成24年に策定した第1次共生ビジョンから位置付けて継続的に取り組んでおり、コロナ前の令和元年に善通寺市偕行社で開催した金毘羅街道活用イベントでは、約3,000名の参加でにぎわうなど、今後も圏域特有の文化・観光資源として大切に磨き上げ、活用してまいりたいと考えています。</p> <p>一方で、夜型観光は、日帰り観光に比べて観光消費額が増える宿泊観光の促進にもつながるため、地域経済への波及効果の観点から、重要な取組として認識しています。</p> <p>そのため、レオマやまんのう公園のイルミネーションイベントの活用、また、食の観光資源に着目したマルシェとの連動も含めた夜型観光の取組により、広域で連携して県外からの誘客と消費を図ることは、大切な視点の一つであるものと存じます。</p> <p>ビジョンに定める広域観光の推進では、金毘羅街道に関する協議会のほか、さぬき瀬戸大橋広域観光協議会での取組も位置付けており、後者の協議会のメンバーには、レオマやまんのう公園、圏域の宿泊施設、また、琴参バスも参画していますので、当協議会での滞在型観光の検討・PR事業の中で、圏域での巡回バスやマルシェについても検討してまいりたいと考えております。</p>